









むかし どうぐ
ちょっと昔の道具たち

発行 NPO法人歴史文化財ネットワークさんだ
 連絡先 三田ふるさと学習館
 〒669-1532 三田市屋敷町7-33
 電話 FAX 079-563-5587
 令和元年11月発行









むかし がっこう
昔の学校





| | | |
|---|---|--|
| <p>ぎょうかしょ ◎ 教科書</p>  <p>ぎょうかしょ めいじ つか 教科書は明治のころより使 われました。しかし、いま ちい り小さいサイズです。</p> | <p>かね ◎ 鐘</p>  <p>じゅぎょう やす じかん し 授業や休み時間を知らせるの しょくいん な に職員さんが鳴らしてしらせ ました。</p> | <p>◎ ランドセル</p>  <p>ランドセルは高価 なものだったのでふろしき か かばん の子もいました。昔のランドセルは いま ちい あか くろ しょく より小さく赤と黒の2色でした。</p> |
|---|---|--|

こめ どうぐ
米つくりの道具




| | |
|---|---|
| <p>せんは ◎ 千歯こき</p>  | <p>うえ は いなたば ひ ば いなほ 上から歯のところに稲束をたたきつけて引っ張ることで、稲穂か もみ だっこく もみ からつ げんまい ら粃がとれました。これを脱穀といいます。粃は殻付きの玄米で す。</p> |
| <p>だっこくき ◎ 脱穀機</p>  | <p>あし ふ はりがね かいてん かいてん 足でペダルを踏むと針金のついたローラーが回転します。回転す るローラーの上に稲束を置くと稲穂からモミが取れます。脱穀機 うえ いなたば お いなほ と だっこくき のほうが千歯こきより、効率よくモミが取れました。</p> |
| <p>どうみ ◎ 唐箕</p>  | <p>まわ かぜ げんまい がら ちり ハンドルを回して風をおこしながら、玄米と、もみ殻、塵などに わ のうきぐ 分ける農機具です。</p> |
| <p>まんごく ◎ 万石通し</p>  | <p>げんまい こごめ と のぞ のうきぐ 玄米から小米を取り除く農機具です。</p> <div style="text-align: center;"> <p>米つくりもいろんな道具を使うね</p>  </div> |

あかり

| | |
|---|--|
| <p>ひうちいし ひ う がね ◎火打石 火打ち金</p>  | <p>ひうちいし せきえい ふく いし いし てつへん う あ ひ 火打石は石英を含む石です。石と鉄片を打ち合わせて火をおこします。 ひ う かね むかし のうぐ はへん つか 火打ち金は昔は農具の破片などが使われていました。</p> |
| <p>あんどん ◎行燈</p>  <p>どうみよざら 燈明皿</p>  | <p>どうみよざら あぶら い どうしん ひ 燈明皿に油を入れて灯芯に火をつけてあかりをつけました。 なたねあぶら さかなあぶらつか なたねあぶら こうか 菜種油や魚油を使っていました。菜種油は高価なものでしたので、安い魚油を使ったりしました。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block;"> <p>魚油の臭さはたまらん</p> </div>  |
| <p>ロウ ◎ 蠟</p>  | <p>もくろう み つく ・木蠟＝ウルシやハゼの実から作られます。 しろろう もくろう にっこう ・白蠟＝木蠟を日光でさらしたものです。 みつろう す つく せいせい ・蜜蠟＝ミツバチの巣を作るロウを精製したものです。 ・パラフィン＝石油精製品</p> |
| <p>◎ろうそく</p> <p>わ ◎和ろうそく</p>  <p>よう ◎洋ろうそく</p>  | <p>なら じだい みつろう ぶっぎよせんらい ちゅうごく はい 奈良時代に蜜蠟のろうそくが仏教伝来とともに中国から入ってきました。とても高価で一般に使われませんでした。 わ 和ろうそく もくろう つく にほん つく 木蠟で作られています。日本で作られたろうそくです。 ほのお おお かぜ しょうしゅう き 炎が大きくて風が少々吹いても消えにくいです。 よう 洋ろうそく せきゆ せいせいひん つく 石油精製品のパラフィンで作られています。 わ ちい ほのお 和ろうそくより炎が小さいですが、炎はあかるいです。 くろ で 黒いすすがよく出ます。</p> |
| <p>ちょうちん ◎提灯</p>  | <p>なか ひ つか 中にろうそくをたてて火をつけて使います。 も はこ がいしゆつ つか かみ は 持ち運びができるので外出にも使いました。 紙を張り そこにろうそくを立てた竹かご提灯がはじまりです。 現在はお祭りなどに使われています。</p> |

| | |
|--|---|
| <p>◎がんどう</p>  | <p>どう つく つ がねがた なか 銅やブリキで作り釣り鐘型になっています。中のろうそ た じゆう かいてん かたむ ひ き く立ては、自由に回転し傾けても、ろうそくの火が消えな くふう とうか き い工夫がされた灯火機です。 げんだい かいちゅうぎんとう やくわり おな 現代の懐中電灯と役割が同じです。</p> |
| <p>◎ランプ</p>  | <p>どうゆ も とも おも へや なか つ 灯油を燃やしてあかりを灯しました。主に部屋の中で吊り さ つか とうゆ けむり つつ くる 下げて使いました。灯油の煙でホヤ（ガラスの筒）が黒く まいにちそうじ なるので毎日掃除をしました。</p> |
| <p>◎ 電球</p> <p>でんきゅう</p>  | <p>さんだ でんき めいじ ねん 三田にはじめて電気がついたのは明治43年のことです。 さんだ えきまえうらふきん はつでんしょ 三田の駅前裏付近に発電所がありました。</p> <p>いま じだい でんきゅう つか 今の時代はLEDの電球が使われています</p>  |

こくるい こな
穀類を粉にしたり、ついたりするもの

| | |
|---|---|
| <p>◎焙烙</p> <p>ほうろく</p>  | <p>すや どなべ いっしゅ ひ 素焼きの土鍋の一種。 火のあたりがやわらかいので、ごまや まめ ちゃ 豆、お茶をいります。</p> |
| <p>◎石臼</p> <p>いしうす</p>  | <p>いしうす うわうす したうす あ だいず こめ ちゃ こな 石臼は上臼と下臼をすりを合わせて大豆、米、茶などを粉に するのに使います。 食品のコクやウマミをひき出すことができます。</p> |
| <p>◎臼と杵</p> <p>うす きね</p>  | <p>もち むかし む だいず みそ つく とぎ 餅をつきます。昔は蒸した大豆をつぶして味噌を作る時も つか 使いました。</p> |

| | | |
|---|---|--|
| <p>せんたくいた ◎ たらいと洗濯板</p>  | <p>せんたくいた めいじ はじ がいこく つた せんたくもの 洗濯板は明治の初め外国から伝わりました。洗濯物をギザギザにこすりつけ汚れを落としました。洗濯板がない時代は、せんたくもの ふ て 洗濯物は踏んだり手でもんだりしていました。</p> | |
| <p>だっすい ◎ 脱水ローラー</p>  | <p>ほん あいだ せんたくもの い まわ 2本のローラーの間に洗濯物を入れ、ローラーを回すことで水を絞ります。初期の洗濯機についていました。</p>  | |
| <p>しんしばり ◎ 伸子針</p>  | <p>ぬの たんもの あら は せんしょく ぬの 布や反物を洗い張り、または染色するとき布幅を一定にするための道具です。反物の巾より長い竹棒の両端に針が埋め込まれています。</p> | |
| <p>しんしば ◎ 伸子張り</p>  | <p>しんしばり すうせんち かんかく うらがえ 伸子針を数cmくらいの間隔で張り、裏返し糊をつけます。乾くとしわがないので、すぐに着物に仕立てられます。</p> | <p>◎ 洗い張り板</p>  |
| <p>ひ ◎ 火のし</p>  | <p>まる ぶぶん すみび い そこ あつ 丸い部分に炭火を入れて底が熱くなれば、布にあててしわを伸ばします。初期のアイロンです。</p> | |
| <p>すみび ◎ 炭火アイロン</p>  | <p>どうたい すみび い あつ 胴体のところに炭火を入れると底が熱くなって使います。火加減を調節するために空気穴や煙突がついています。</p> | |
| <p>◎ こて</p>  | <p>ひばち なか すみび はい なか い 火鉢の中の炭火の灰の中にこて先を入れて熱くして使います。着物を縫う時、こま ぶぶん つか 細かい部分に使いました。</p> | <p>◎ 電気アイロン</p>  <p>でんき ねつ はっせい 電気で熱を発生させる。 はつめい エジソンが発明した。</p> |